

玉野市宇野七丁目土砂崩れ調査（平成 18 年 6 月 1 日）

（報告書概要）

谷部分の現在の地山にはほとんど被覆土壌が残っておらず、この谷の被覆土はもともと薄かったらしいが、大雨による多量の水流によって、谷沿いの被覆土を押し流し、花崗岩の岩塊の微妙なバランスが崩され、岩塊も土石流と共に急速に流下したのであろう。谷の長さは短く、100mを超えない。谷の下方に広がる耕作畑はマサ土で、これはもともと深層風化の土壌であったのであろう。

ここは現在完成した砂防壁で十分安定であろうと思うが、谷の延長線上、正面にある家屋は今後も安定だとはいえない。

玉野市宇野七丁目土砂崩れ(平成 18 年 6 月 1 日 調査)(写真:No. 1 ~ 12)

ここは谷が急傾斜で小さく、かつ、短いにも拘らず、下方に大量の土砂が流出して被害が広がっている。谷地形は山地部の雑木の茂る部分の 100m 前後の範囲に見られるだけで、下方には突然耕作地が広がり、耕作地の左右と下方には人家が密集している。この様子から、当被害地はこれまでに土砂崩れの被害を殆ど受けていないのではなかろうか、と思われる。この度は大量の流水によって異変が起こり、耕作地が崩されたらしいが、この程度の大きさの谷に、どうしてこれほどの被害が生じたのか、むしろ不思議な気がする。

この谷は殆ど花崗岩からなっている。谷の一番上位に流紋岩があって、その下の花崗岩にかぶさった形になっている（写真 No.11・12）。流紋岩は細粒で、一般に風化に強く、したがって、谷地形は花崗岩から始まっている。地山の被覆土は薄く、今は谷筋を中心に、数mの範囲の被覆土がほぼ欠落している。

この程度の大きさの谷によって、以前、耕作地が開けたほどの、大量の土砂が供給されたとは考えられないので、耕作地の大部分はもともと花崗岩が深層風化した部分であったのであろう、と考えられる。

この度、大量の降雨によって、谷の上端部を被覆していた土砂がはがれて崩落し、谷筋に一部露出していた花崗岩の岩塊も、岩塊の周囲を埋めていた土砂が無くなってバランスを失い、土砂と共に流れ下ったのであろう。勿論、耕作地にも大量の水が流れ込み、流動化した土壌が土砂の崩落と合流して、被害が大きくなったようである。耕作地の斜面傾斜は谷筋部分に比べればかなり緩やかになってはいるが、被害地全体がかなり急斜面なので、大変危険であった。

谷地形は左右2本(写真 No. 5)みられるが、左側の谷は右側の谷に合流している。土砂崩れは右側の谷の方の規模が大きかったようで、左側の谷筋にはまだかなりの被覆土が残されている。谷地形は右側が直線的で、左側は少しカーブしている。

現在、以前の耕作地が始まっていた付近(?)の上位にコンクリートの砂防堤が新しく造られている。この谷の規模からみて、上方に残っている土砂が崩れても、この程度の大きさの堤防で十分に止められよう。しかし、今、谷を被覆していた土砂は殆ど流されて(写真 No.6)谷には露岩がむきだしなので、今後の災害は降雨量が増加した時、特に、水に注意を要する。耕作地の下位には住宅地が密集しているので(写真 No.4)多量の水が土砂に混じって流れ下ったときを予測して、水の新しいはけ口を準備しておく必要がある。また、出来れば、谷筋直下にある住宅は他の場所へ移動するのがよいと思う。

玉野市山田地内土砂崩れ調査 (平成 18 年 6 月 1 日調査)

(報告書概要)

ここは主として花崗岩からなる急傾斜の岩盤が 4・50m露出し、その上を薄い被覆土が被さっていたらしいが、岩盤直上の、尾根筋に小さな貯水ダムがあり、水があふれて、被覆土を一気に押し流したらしい。岩盤下の道路は岩盤斜面を横切る方向に走っている。現在は道路沿いにしっかりしたコンクリートの砂防壁が設置されて、災害防御は充分と考える。

玉野市山田地内土砂崩れ(平成 18 年 6 月 1 日 調査)(写真 No. 13~15)

(報告書)

頭部の滑落崖のさらに上位の尾根筋に(写真 No.13~14; 現在樹木でかくれる)古い水路が作られており、水路の水が溢れて滑落崖を流れくんだり、災害が発生した、ということである(近所の住民談)。現在は、その下端の道路際に土砂防止壁が新たに作られている(写真 No.13)。

滑落崖にかぶさっていた風化土は、今はほぼ完全に剥ぎ取られたので、今後同じ程度の流水があっても、防止壁が機能し、大きな災害にはならないであろう。これも、滑落崖の正面に一軒の民家があり、余り安全な場所とはいえない。

立ち退きを勧める。

濡木輝一・高野信男
(写真はすべて高野が提供)